

# 矢作川流域圏懇談会「第1回山部会WG」開催報告

## 1. 実施概要

### (1) 実施概要

○実施日時：平成24年4月28日(土)  
13:00～17:40

○開催場所：

【集合】根羽村役場

【訪問箇所】つたの滝、浅間神社周辺、桜の庭、グリーンハウス森沢、モデル住宅、作業道

【WG会場】根羽村森林組合

### (2) 内容

#### 【プログラム】

1. 現地見学

テーマ「根羽村のトータル林業」等の紹介

2. 山部会WG

(1) 根羽村森林組合からの説明

(2) 意見交換

○参加者：20名（事務局含む）



会議風景（1）



会議風景（2）

## 2. 主な会議内容

第1回地域部会WGでは、林業立村をめざす根羽村の現状を現地見学した上で、山村再生に向けた意見交換を行った。WGで話し合われた内容は以下のとおりである。

- 根羽村森林組合からは、「山村再生担い手づくり」「森づくり指針について」について具体的な提案があった（次ページ参照）。
- 今後の進め方としては、山村再生担い手づくりでは、事例集づくりを先行的におこなっていくことが確認された。
- 次回のWGは、5月19日に岡崎（額田）で開催することを確認した。

## 根羽森林組合からの提案事項

### (1) 山村再生担い手づくり

- ・ 林業に従事する者の人材育成経費支援（一人前になるには10年必要）
- ・ 林業従事者定住支援（住宅取得支援・システムの支援）
- ・ 下流域の市町村住民等が上流域の木材を普通に使えるようなシステム構築（地域企業等の参加による木育から始まる家づくり）
- ・ 山村部の木育指導に関する経費支援
- ・ 市民参加できる簡易伐採出機の支援
- ・ 下流域の小学校の工作室等教育分野への木造公共施設普及、企業事務所、3階木造住宅提案
- ・ 農家民泊、田舎の親戚制度創設
- ・ 林業最前線からの林業教科書づくり
- ・ 魅力的な林業の職場を自らつくる

### (2) 森づくり指針

- ・ 茶臼山北面天然林に信大農学部への演習林設定（流域住民の樹木学実習）
- ・ 森林水文学の市民講座開設
- ・ 間伐指針の最終形（スギ 400 本/h a、ヒノキ 600 本/h a）から次世代に向けた山づくりの方向性
- ・ 市民が考えられる林学のお誘い
- ・ 再造林、複層林、広葉樹林、混交林、記念樹の森、作業道開設
- ・ 森づくりへの市民参加
- ・ 獣害対策からシカ肉の特産品化へ（信大農学部との連携）

### 3. 見学会概要

#### (1) つたの滝

- ・ 地域に埋もれた宝を見つけ出して地域資源にした事例。
- ・ 下流に住む人が滝までの道を間伐や階段づくりを行い、水辺であそべる場所をつくった。



#### (2) 浅間神社周辺

- ・ 個人ではなく、組の山として管理してきた森林の事例。
- ・ 林業立村の村であり、森林資源をしっかりと育ててきている。
- ・ 現状で400本/haの森林をどの程度伐採するか、シカの食害をどうするかが課題。



#### (3) 桜の庭

- ・ もともと畑であったところに桜を植えて桜の庭にした事例。
- ・ 桜を植えてから15年が経ち、しだれ桜、よしの桜、八重桜、はなももなどが咲いている。
- ・ 今後は、親戚づくりを通じて、さくらの庭を楽しむ人たちを増やしたい。



#### (4) グリーンハウス森沢

- ・ もともとの小学校を宿泊・研修センターに改修した施設の事例。
- ・ 宿泊は60名対応可能であり、テニスコートや弓道場なども併設されており、会議などに使ってもらいたい。
- ・ 庭には、バイクミーティングにより、はなももが植えられている。



#### (5) モデル住宅

- ・ 30代の若い人を想定した根羽の水源林をつかったモデル住宅の事例。
- ・ カラマツや根羽スギが床や柱に使われており、太陽熱利用システムも活用。
- ・ モデル住宅への体験宿泊も実施していた（現在は中止）。



#### (6) 作業道

- ・ 作業道の整備事例。
- ・ 100m~200m/haの間隔で作業道をつくるのが理想的。
- ・ 壊れない作業道づくりがポイントであり、5000円/mくらいで整備したい。
- ・ 整備量としては、5000m/年程度を実施していく予定。



#### 4. 山部会WG概要 (・ ご意見、提案 ▶ 回答)

根羽森林組合今村氏から根羽村の林業、森林を活用した地域づくりなどに関する情報提供を踏まえて意見交換を行った。

- ・ 説明を聞くと何も問題がないように見える。葛藤などがあれば教えてほしい。(丹羽)
  - ▶ 森林体験ツアーなどを行っているが、最終的には根羽の木材を使った住宅づくりにつながりたい。そのために、木材が使われるシステムづくり、最終的には販路をつくっていきたい。(今村)
- ・ システムのイメージは何か。(蔵治)
  - ▶ 下流域の人たちが木育を通じて水源のことを理解してほしい。それが家づくりにつながるようにすり込みをしたい。(今村)
- ・ 20年後は根羽村の小学校は存続するのか。(丹羽)
  - ▶ 分からないが、まずは、女性の働く場がないと結婚に結びつかない。人が住むためには産業を興さないとダメであり、根羽村ではそれが山をどう活用するかになると思う。(小木曾)
- ・ 商店はどうなりそうか。後継者はいるのか。(丹羽)
  - ▶ 現在、商店は、20軒弱ある。地域通貨を始めており、厳しいが0にはならないと思う。(小木曾)
- ・ 山主は山に向かっているか。(丹羽)
  - ▶ 昭和40年くらいは、木材価格が高騰し、山は貯蓄であった。現在では自分の手で山の管理を行っている人は少なくなったが、森林組合にお願いしている人はいる。村では山づくりの意欲をつくっているが、国産材の利用率が20%では山村が捨てられる危惧がある。木育を行っているのは、山の恵みを知ってもらい、木を使ってもらうためであり、木の家をつくってもらいたい。(小木曾)
- ・ これだけの資料が用意できたのはすごいと思う。それだけ苦労しているのではないか。東日本大震災で大量の家の需要があるが、建つのはプレハブ住宅だけである。100年くらい命のある家を建てたいと思う。(黒田)
- ・ 現在小学生は何人くらいいるのか。(黒田)
  - ▶ だいたい60人くらい。(小木曾)
- ・ 保育園はどれくらいか。(黒田)
  - ▶ 全体で20人くらい。(小木曾)
- ・ 子どもが10人をきると地域の中で危機感がでてくると思う。(丹羽)
- ・ 林業だけで村の予算の25%を占めており、村民のほとんどが山主である。森林組合により、50人の働く場ができたことは重要であり、今後、山をどう活かすかが課題である。林業が衰退した時が、村が無くなる時だと思う。(小木曾)
- ・ 村に森林組合が1つしかなく、村長が組合長であるので、林業を行うのは理想の村だと思う。(丹羽)
  - ▶ 林業行政はしやすいが、それでも経営が厳しいのが現状である。(小木曾)
- ・ 年収1000万をめざすとは。(丹羽)
  - ▶ 森林組合は、主要な就職先ではあるが、賃金水準が低いのでモチベーションを高めた

い。このような意気込みを示せばいい人材が集まるのではないかと、年収を1000万めざしたいと考えている。(今村)

- ・ お金だけを求めるときついでブータン型の山村づくりとして、お金が少なくてもいいようなライフスタイルを求めた方がよいのではないかと。(黒田)
  - ▶ 地域の人が適切な対価をもらわないと持続可能にはならず、モチベーションも持てなくなる。拝金主義ではないが、利益の概念ははずせない。(今村)
- ・ 産業があって、事業があって、はじめて雇用が生まれる。雇用があり、Iターンしてきてもお金がもらえないと去ってしまう。その点、森林組合の給料はどうか。(大島(徳))
  - ▶ 初任給は手取りで16万くらい。ボーナスは出来高で出している。(今村)
- ・ 根羽は団結力がすごいと思う。うち(恵南)はその意識が乏しい。(大島(徳))
- ・ ねば杉っこ餅として、50~60代の女性が集まり、草餅などをつくっている。また、村外からの農家民泊も多く、食の交流を行っている。当初は田舎の生活がつまらなかったが、今は可能性を感じている。息子が家の木を使って家を建てたいといい、根羽の木を使った家を建てた。そうゆう気持ちを育ててほしいと思う。(藤井)
- ・ 串原地区は高齢化率40%以上であり、空き家の活用(リフォーム)で人口増を行っていききたい。その結果、若者が8名きたが、働くところがないのがネックとなっている。これらの人に企業をしてほしいのでバックアップしているが、将来的に生活設計していくためには収入が必要。今後、農地の放棄地を使って作物を育て、名古屋市給食センターに引き取ってもらうことも考えている。(大島(光))
- ・ ここの山は、串原の山と違い、非常にいい山で、古くから林業経営をされている感じがする。(大島(光))
- ・ 収入が少ないのはどこでも同じ。山だけの問題ではなく、まちでもおきている。それほど、悲観することでもないと思う。(高橋)

ここから、蔵治先生より、山部会WGの趣旨説明を行い、今後の進め方を確認した。また、現地見学を踏まえて参加した感想を話し合った。

- ・ 現地2時間、WG2時間では時間が短く、もっと深く話を聞きたかった。今後は、中下流の人に山のことをいかにPRするかがポイントだと感じた。山のことを知ってもらうためには、林業で食べていけるスタイル、暮らしのよさも一緒にアピールすればいいのではないかと。そのため、フィーリングカップルを何回かするというのもいいと思う。(洲崎)
- ・ 根羽の山づくりはすごいと感じた。私も森の健康診断を実施し、まちの人を森に案内し、森を知ってもらうことを行っており、少しでも生活が豊かになればいいと思う。(稲垣)
- ・ 森の健康診断には参加したことがある。現地見学では、浅間神社の木がすごかった。林業を村全体でやっていくことがすばらしいと思う。(松井)
- ・ 山は手が入っていてきれいだと感じた。どこまでお手伝いできるかはあるが、これからも関わっていききたい。また、世代間交流ができればいいと感じた。(森)
- ・ 今日は、いろいろと見学できて、ありがとうございました。(鷹野)
- ・ 森林組合の人ががんばっていることが良かった。もっと知りたいと思った。(溝口)
- ・ 山のことについては、引き続き考えていきたいと思う。(松山)

- ・ 今日には本当にいいところを見させてもらった。(佐伯)
  - ・ 豊田市では、なかなか的確な道筋がみえておらず、役所が思っていることと市民の意識が違う。その点、根羽村は林業立村ということで意識が明確になっている。また、長野県と愛知県ということで、全然情報が流れてこないことが課題だと思う。(原田)
  - ・ 下流の人がボランティアで滝へのアプローチをつくったという話について、経緯等も含め山村再生担い手事例集に盛り込んだらどうか。また、モデル住宅は非常にいいと思うので、情報発信をどうするかを考えていけばいいと思う。(土屋)
  - ・ 平谷村でも林業をすすめていきながら、村の存続を図っていきたい。(原)
  - ・ 今日、みなさんからいろいろと話が聞けて参考になった。(藤城)
- 
- ・ 最後に私の役職が違うので名簿の訂正してほしい。今日の話聞いて林業が厳しいのは、材価がやすいということに尽きると思う。豊田市・岡崎市は自分たちの森林で手一杯の状況であることから、根羽としては、安城市や西尾市とのつながり、海との活路をひらいたら方がいいのではないかと思う。また、工務店とのつながりや地元の建築系の人とのつながりをもった方がいいと思う。(蔵治)
  - ・ 次回は、5月19日岡崎市(額田)での開催を予定する。(蔵治)

以上